

音楽指導における学習のねらいに関する一考察

～音や音楽のもつ機能の効果的活用～

日高 まり子*

【要約】

小学校学習指導要領における音楽教育の目標は「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」と規定されている。この目標では、「音楽を愛好する心情」、「音楽に対する感性」、「音楽活動の基礎的な能力」という「心情」、「感性」、「能力」の三つを密接に関連させながら、音楽教育のすべての段階において、常に児童の情意面と能力面に及ぼす影響を念頭におきながら指導する必要があることを示している。そこで、著者は、音楽における学習活動において、音や音楽のもつ様々な機能を明確にしなが、これらを組み合わせて音楽指導を効果的に展開させ、音楽教育の目標をより充実した形で達成させることを目的として検討してきた。本論文では、関連する先行研究に関する情報・知見を収集・整理し、さらに著者の教育現場における経験等を踏まえ、音や音楽のもつ機能を学習指導要領等により効果的に反映させ、教育現場におけるより充実した音楽教育を考察したい。

【キーワード】 音楽的機能, 音楽教育, 音楽指導, 音楽活動, 学習指導要領

1 はじめに

学校現場における児童・生徒を対象にした音楽の授業では、児童・生徒一人一人が見せる姿に感動させられることが多い。それは、歌声や演奏などの音楽表現のみならず、音楽活動で見せる一人一人の瞳の輝きであったり、深い呼吸であったり、かすかな手指の動きであったり、全身で喜びを表現する児童・生徒の姿である。音楽の学習内容の理解を深め、主体的に技能を伸ばそうとする豊かな表現力をもつ児童・生徒にも出会うこともある。児童・生徒の音楽への気づきは、その音楽の鳴り響く音楽空間に心地よさを感じ、音・音楽を通して他者とつながり、共に響きあう喜びへとつながっていくように思われる。

中央教育審議会答申(文部科学省 2016)において、「各教科において何を教えるかということは重要であるが、これまで以上にそれぞれの教科を学ぶことによって『何ができるようになるか』を意識した指導が求められている。また、新学習指導要領において、各学校は教育課程の検討・改善や、創意工夫にあふれた指導の充実を図るように工夫していくことが求められる。」と指摘されている。このように新学習指導要領では、各教科における目標・目的を適切に達成するために、効果的な指導の工

音楽指導における学習のねらいに関する一考察
～音や音楽のもつ機能の効果的活用～

夫・改善が必要となっている。

以上のようなことから、本論文では、音や音楽のもつ機能について、既に報告されている藤田(2015)、松井(1995)や遠山(2005)など先行研究の思索をもとに、学習指導要領及び著書の長年の音楽教育における知見・経験から、音楽指導における狙いをどのように考えるべきかについて一考察した。

2 方法

本論文では、藤田(2015)、松井(1995)や遠山(2005)、宇佐川(1994)らの「音や音楽のもつ機能」について報告した先行研究を基に思索し、得られた情報等を表1に整理した。また、表2では、表1における音・音楽の機能性に、小学校学習指導要領及び著者が経験してきた学習のねらいを加味し作成・提案した。

3 結果及び考察

音、音楽を素材とした学習活動では、音や音楽のもつ機能を明らかにして効果的な音楽指導を展開することで、学習指導要領に示される音楽の目標に到達させることができると考えられる。表1にそれぞれ音・音楽の機能(①～⑧)と学習のねらいを表1に整理した。

音・音楽の機能(左欄の①～⑧及びその説明)に対する音楽教育における実践可能な学習のねらい(右欄)を列挙した。児童生徒がもつ心情、感性、能力のすべてあるいはいずれかに影響を及ぼすような「学習のねらい」を設定している。このように音楽のもつそれぞれの機能に対応した学習のねらいを設定することにより、より効果的な音楽教育が実践できるものと考えている。

表1 音・音楽の機能に対応した学習のねらい

音・音楽の機能	学習のねらい
① 音や音楽は生理的な反応を引き出す影響がある。 ・音や音楽を感じた時に呼吸や脈拍、筋緊張の状態の変化、手指、身体の動きなど生理的な反応がある。それは、意図的でなく偶発的なものでもある。歌唱、器楽、音楽遊びや身体表現、時には鑑賞の場面においても子どもたちの生理的反応に出会う。	・音楽のリズムに反応することができる。 ・音楽が流れている中で、遊ぶことができる。 ・鑑賞することによって、音楽に対して心を開き、楽しく聴く能力や態度を育てる。 ・音楽が流れている中で発声できる。 ・声を出したりコントロールしたりするために必要な感覚や身体面の発達を促す。

<p>② 音・音楽は、様々な感覚への刺激となる。</p> <p>・歌唱や器楽の演奏での自分の作り出す声や楽器の音色を聴きとる聴覚，楽器演奏での指先で感じる音の響きを感じる触覚，楽器演奏での手指の動きの感覚，身体表現での自分の身体感覚，音楽活動を見渡す視覚など，音楽的活動での諸感覚への刺激を受ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽が流れている中で、遊ぶことができる。 ・楽器の振動や音色や感触に直接触れて感じることができる。 ・音楽が流れている中で発声できる。 ・様々な楽器の音色に親しむ。 ・低学年の音楽指導を動的に楽しくするとともに、リズム感を育成する。 ・身体表現をすることで、曲全体の気分を活動によって感じ取る。 ・楽器や手作り楽器で表現することの楽しさや喜びを、活動を通して味わう。 ・楽器や手作り楽器による表現を通して、楽器に親しむとともに、両手の協応を高め育てる。 ・リズム指導を重視し、多様な活動を通してリズム感覚の伸張を意図的に図る。 ・発声することへの興味・関心を引き出し、楽しんで歌を歌う態度を育てる。 ・歌唱指導では、「身体表現」や「器楽」及び「鑑賞」などの活動と関連を図りながら、音楽活動を行う上で必要な諸感覚や運動面などの総合的に伸ばす中で歌唱能力を高める。 ・歌唱指導では、「身体表現」や「器楽」及び「鑑賞」などの活動と関連を図りながら、音楽活動を行う上で必要な諸感覚や運動面などの総合的に伸ばす中で歌唱能力を高める。
<p>③ 音楽の各活動は、身体的な動きを伴い、運動機能に影響する。</p> <p>・リズム活動など音楽活動における動きは、手指の巧緻性であったり、身体バランスであったり、筋肉の緊張、弛緩など様々な運動機能に影響する。発声などにおいても、呼吸と声帯とのバランスや発音における口腔内の動き、筋肉の動きのコントロールなど様々な身体における影響を受ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽を受け止めたこと顔の表情や体の動きで示したりすることができる。 ・打楽器を自由に打ったり、バチで打ったりできる。 ・音楽の始まり、終わりに合わせて声を出したり声を止めたりできる。 ・聴いたり、歌ったり、楽器を鳴らしたり、身体を動かしたり、好きな表現ができる。 ・主旋律などを覚えて、ロズさんたり、音楽に合わせて身体反応を楽しんだりする。 ・様々な楽器の音色に親しむ。 ・低学年の音楽指導を動的に楽しくするとともに、リズム感を育成する。 ・音との関連の中で常に身体の動きを伴わせることによって、音楽的感覚を伸ばす。

音楽指導における学習のねらいに関する一考察
～音や音楽のもつ機能の効果的活用～

	<ul style="list-style-type: none"> ・動きの変化によって、楽曲の構成を自然に把握できる能力を育てる。 ・楽器や手作り楽器による表現を通して楽器に親しむとともに、音楽を愛好する心情を育てる。 ・楽器や手作り楽器による表現を通して、楽器に親しむとともに、両手の協応を高め育てる。 ・リズム指導を重視し、多様な活動を通してリズム感覚の伸張を意図的に図る。 ・声を出したりコントロールしたりするために必要な感覚や身体面の発達を促す。 ・歌唱指導では、「身体表現」や「器楽」及び「鑑賞」などの活動と関連を図りながら、音楽活動を行う上で必要な諸感覚や運動面などの総合的に伸ばす中で歌唱能力を高める。 ・歌唱指導では、「身体表現」や「器楽」及び「鑑賞」などの活動と関連を図りながら、音楽活動を行う上で必要な諸感覚や運動面などの総合的に伸ばす中で歌唱能力を高める。
<p>④ 音楽の活動には、認知に関する活動がある。</p> <p>・音楽理論や歌詞理解，楽器演奏能力，楽譜読解力など音楽的な認知事項に関わるものである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音に気づくことができる。 ・音のでるおもちゃや楽器や機器に興味や関心をもつことができる。 ・教師の楽器演奏や歌う方を見ることができる。 ・音楽の始まり，終わりに合わせて声を出したり声を止めたりできる。 ・音楽についての幅広い視野を広げる。 ・鑑賞で得た音楽的能力を表現で生かせる能力と態度を育てる。 ・音との関連の中で常に身体の動きを伴わせることによって、音楽的感覚を伸ばす。 ・動きの変化によって、楽曲の構成を自然に把握できる能力を育てる。 ・自主的、想像的な活動によって創造的な体験をする。 ・伸び伸びした活動により、音楽的感覚を育てる。 ・合奏で合わせる楽しさを味わう。 ・好きな歌を歌ったり，教師の歌う歌やCD等の歌を模倣したり，覚えようとするなど活動を発展的に育てる。 ・歌詞の意味を感じ取り，曲想の理解をより深め，意識的な歌唱表現ができる技能を育てる。 ・音楽的な雰囲気の中で，数多くの歌に親しむことによって，

	<p>歌唱意欲を高め、歌うことの楽しさや喜びを味わえる能力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱で声を合わせる楽しさを味わう。
<p>⑤ 音楽は、コミュニケーション力を向上させ、集団活動での体験をもたらす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱や合奏、鑑賞、音楽遊びや即興表現など創作活動においては音楽や他者、そして教師とのコミュニケーションが活発になり、集団活動での体験を促進させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器を通して教師とやりとりできる。 ・教師や友達の表現するのを聴いて、その良さを認め合い、心の交流を深める。 ・合奏で合わせる楽しさを味わう。 ・好きな歌を歌ったり、教師の歌う歌や CD 等の歌を模倣したり、覚えようとするなど活動を発展的に育てる。 ・音楽的な雰囲気の中で、数多くの歌に親しむことによって、歌唱意欲を高め、歌うことの楽しさや喜びを味わえる能力を育てる。 ・合唱で声を合わせる楽しさを味わう。
<p>⑥ 音楽の活動には、社会的要素が含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱や合奏、創作など仲間と協力し合う場面の音楽活動では、社会的ルールが必然的に存在し、社会的な要素を学ぶ場となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽が流れている中で発声できる。 ・音楽の始まり、終わりに合わせて声を出したり声を止めたりできる。 ・美しい音楽を美しいと感じ取る心情を育てる。 ・鑑賞で得た音楽的能力を表現で生かせる能力と態度を育てる。 ・学習方法に動きを導入することで、学習に変化をもたらせ、「楽しさ」の情緒を体験する。 ・楽器や手作り楽器で表現することの楽しさや喜びを、活動を通して味わう。 ・楽器や手作り楽器による表現を通して、楽器に親しむとともに、両手の協応を高め育てる。 ・伸び伸びした活動により、音楽的感觉を育てる。 ・リズム指導を重視し、多様な活動を通してリズム感覚の伸張を意図的に図る。 ・合奏で合わせる楽しさを味わう。 ・発声することへの興味・関心を引き出し、楽しんで歌を歌う態度を育てる。 ・音楽的な雰囲気の中で、数多くの歌に親しむことによって、歌唱意欲を高め、歌うことの楽しさや喜びを味わえる能力を育てる。 ・合唱で声を合わせる楽しさを味わう。
<p>⑦ 音・音楽は、心理的な解放をもたらし、情緒を安定させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞することによって、音楽に対して心を開き、楽しく聴く能力や態度を育てる。

音楽指導における学習のねらいに関する一考察
～音や音楽のもつ機能の効果的活用～

<p>・音楽的嗜好の個人差はあるが、楽曲の曲想から心理的開放をもたらす。鑑賞においては、楽しく開放的であったり、ゆったりと鎮静するものであったり、音楽が空間を支配し様々なイメージから雰囲気を作り出される。そこには音楽の形式的な特徴（拍子感、調性感、楽器編成、編曲等）や音楽的機能が関わっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい音楽を美しいと感じ取る心情を育てる。 ・生活の中で、進んで音楽を鑑賞しようとする意欲を高める。 ・教師や友達が表現するのを聴いて、その良さを認め合い、心の交流を深める。 ・学習方法に動きを導入することで、学習に変化をもたらせ、「楽しさ」の情緒を体験する。 ・身体表現をすることで、曲全体の気分を活動によって感じ取る。 ・楽器や手作り楽器による表現を通して楽器に親しむとともに、音楽を愛好する心情を育てる。 ・伸び伸びした活動により、音楽的感覚を育てる。 ・発声することへの興味・関心を引き出し、楽しんで歌を歌う態度を育てる。 ・音楽的な雰囲気の中で、数多くの歌に親しむことによって、歌唱意欲を高め、歌うことの楽しさや喜びを味わえる能力を育てる。 ・歌唱指導では、「身体表現」や「器楽」及び「鑑賞」などの活動と関連を図りながら、音楽活動を行う上で必要な諸感覚や運動面などの総合的に伸ばす中で歌唱能力を高める。
<p>⑧ 表現活動を通じた自己表現の体験は、自己の精神的コントロールに影響する。</p> <p>・表現活動においては、歌唱、器楽、身体表現など音、音楽を媒介にした自己表現の手段となる。自己のイメージ力を高め、創作的活動への意欲や余暇活動への楽しみへと繋げていくことができ、精神的コントロールとして有効であると考ええる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい音楽を美しいと感じ取る心情を育てる。 ・生活の中で、進んで音楽を鑑賞しようとする意欲を高める。 ・歌詞の意味を感じ取り、曲想の理解をより深め、意識的な歌唱表現ができる技能を育てる。 ・音楽的な雰囲気の中で、数多くの歌に親しむことによって、歌唱意欲を高め、歌うことの楽しさや喜びを味わえる能力を育てる。

2) 音楽指導における学習のねらい

学習指導要領では、音楽の教育活動は、音楽あそび、歌唱、器楽、表現、鑑賞に分類される。表2において、小学校学習指導要領における各活動の音楽のねらい（1・2年生、3・4年生、5・6年生の3段階に分類）に対して、音や音楽のもつ機能からみた学習のねらいを対比させた。また、音や音楽のもつ機能について、音や音楽のもつ機能をふまえた学習のねらいを示した（表1で示した①～⑧を表2右欄に付記）。その結果、8つの音や音楽のもつ機能は、表2の学習のねらいに付記した番号が単独あるいは複数付記されていることから、各活動に対して一つの機能あるいは複数の機

能が同時に学習のねらいとなっていることが明らかである。

表2 音楽活動と音や音楽のもつ機能を踏まえた学習のねらい

活動	小学校学習指導要領における 音楽のねらい ※各学年の指導内容を各活動に合わせ分類し示した。	音や音楽のもつ機能をふまえた 学習のねらい ※①～⑧は表1において分類された音や音楽のもつ 機能を示す。
音楽遊 び	<ul style="list-style-type: none"> ・声や身の回りの音の面白さに気づいて音遊びをする。(1・2年) ・音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくる。(1・2年) ・いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現する。(3・4年) ・いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現する。(5・6年) ・楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉に表すなどして楽曲の特徴や演奏のよさに気づき、理解する。(5・6年) ・音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくる。(5・6年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・音に気づくことができる。④ ・音や音楽を受け止めたことを顔の表情や体の動きで示したりすることができる。③ ・音楽のリズムに反応することができる。① ・音のでるおもちゃや楽器や機器に興味や関心をもつことができる。④ ・音楽が流れている中で、遊ぶことができる。①② ・教師の楽器演奏や歌う方を見ることが出来る。④ ・楽器の振動や音色や感触に直接触れて感じることが出来る。② ・打楽器を自由に打ったり、パチで打ったりできる。③ ・楽器を通して教師とやりとりできる。⑤ ・音楽が流れている中で発声できる。①②⑥ ・音楽の始まり、終わりに合わせて声を出したり声を止めたりできる。③④⑥ ・聴いたり、歌ったり、楽器を鳴らしたり、身体を動かしたり、好きな表現ができる。③
歌 唱	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したりする。(1・2年) ・歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う。(1・2年) ・自分の歌声及び発音に気をつけて歌う。(1・2年) ・互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。(1・2年) ・歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。(3・4年) ・呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う。(3・4年) ・お互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。(3・4年) ・歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。(3・4年) ・呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う。(3・4年) ・歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。(5・6年) ・各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて演奏する。(5・6年) ・範唱を聴いたり、楽譜を見たりして歌う。(3・4・5・6年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・発声することへの興味・関心を引き出し、楽しんで歌を歌う態度を育てる。②⑥⑦ ・声を出したりコントロールしたりするために必要な感覚や身体面の発達を促す。①③ ・好きな歌を歌ったり、教師の歌う歌やCD等の歌を模倣したり、覚えようとするなど活動を発展的に育てる。④⑤ ・歌詞の意味を感じ取り、曲想の理解をより深め、意識的な歌唱表現ができる技能を育てる。④⑧ ・音楽的な雰囲気の中で、数多くの歌に親しむことによって、歌唱意欲を高め、歌うことの楽しさや喜びを味わえる能力を育てる。④⑤⑥⑦⑧ ・歌唱指導では、「身体表現」や「器楽」及び「鑑賞」などの活動と関連を図りながら、音楽活動を行う上で必要な諸感覚や運動面などの総合的に伸ばす中で歌唱能力を高める。②③⑦ ・合唱で声を合わせる楽しさを味わう。④⑤⑥
器 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する。(1・2年) ・楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏する。(1・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器や手作り楽器で表現することの楽しさや喜びを、活動を通して味わう。②⑥ ・楽器や手作り楽器による表現を通して楽器に親しむ

音楽指導における学習のねらいに関する一考察
～音や音楽のもつ機能の効果的活用～

	<p>2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏する。(1・2年) ・曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する。(3・4年) ・互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する。(1・2年) ・音色に気を付けて旋律楽器や打楽器を演奏する。(3・4年) ・互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する。(3・4年) ・曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する。(5・6年) ・楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏する。(5・6年) ・各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する。(5・6年) ・範奏を聴いたり、楽譜を見たりして演奏する。(3・4・5・6年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・とともに、音楽を愛好する心情を育てる。③⑦ ・楽器や手作り楽器による表現を通して、楽器に親しむとともに、両手の協応を高め育てる。②③⑥ ・伸び伸びした活動により、音楽的感覚を育てる。④⑥⑦ ・リズム指導を重視し、多様な活動を通してリズム感覚の伸張を意図的に図る。②③⑥ ・合奏で合わせる楽しさを味わう。④⑤⑥
<p>音楽づくり・身体表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・声や身の回りの音の面白さに気づいて音遊びをする。(1・2年) ・いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現する。(3・4年) ・音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽を作る。(3・4年) ・いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現する。(5・6年) ・音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくる。(5・6年) ・楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や良さを理解する。(5・6年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の音楽指導を動的に楽しくするとともに、リズム感を育成する。②③ ・音との関連の中で常に身体の動きを伴わせることによって、音楽的感覚を伸ばす。③④ ・学習方法に動きを導入することで、学習に変化をもたらせ、「楽しさ」の情緒を体験する。⑥⑦ ・身体表現をすることで、曲全体の気分を活動によって感じ取る。②⑦ ・動きの変化によって、楽曲の構成を自然に把握できる能力を育てる。③④ ・自主的、想像的な活動によって創造的な体験をする。④
<p>鑑賞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の気分を感じ取って聴く。(1・2年) ・音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴く。(1・2年) ・楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気づく。(1・2年) ・曲想とその変化を感じ取って聴く。(3・4年) ・音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴く。(3・4年) ・曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く。(5・6年) ・音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴く。(5・6年) ・楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や良さを理解する。(5・6年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞することによって、音楽に対して心を開き、楽しく聴く能力や態度を育てる。①⑦ ・音楽についての幅広い視野を広げる。④ ・美しい音楽を美しいと感じ取る心情を育てる。⑥⑦⑧ ・鑑賞で得た音楽的能力を表現で生かせる能力と態度を育てる。④⑥ ・主旋律などを覚えて、ロずさんだり、音楽に合わせて身体反応を楽しんだりする。③ ・様々な楽器の音色に親しむ。②③ ・生活の中で、進んで音楽を鑑賞しようとする意欲を高める。⑦⑧ ・教師や友達が表現するのを聴いて、その良さを認め合い、心の交流を深める。⑤⑦

さらに、著者は自分自身の授業実践経験を踏まえて、学習活動における導入において効果的な活動である音楽遊びの活動と音楽を直接的に体感させるために必要な感覚的活動であるところの創

作的な発想をイメージさせる身体表現活動を表2に加筆した。音楽遊びの活動は、特に低学年などの児童や発達に課題のある児童生徒における音楽的な興味関心を高める活動としても重要であると考えている。すなわち、歌唱活動に示した「歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う。(学習指導要領, 1・2年)」の指導内容に音や音楽のもつ機能の学習のねらい「発声することへの興味・関心を引き出し、楽しんで歌を歌う態度を育てる。」「声を出したりコントロールしたりするために必要な感覚や身体面の発達を促す。」を指導のねらいに加えることで、充実した指導計画を立案し、より創意工夫した指導案を作成し、授業を行うことが可能となる。このように学習指導要領で求められる指導水準に音・音楽の機能を工夫することにより、音楽教育の充実・改善につながるものと考えられた。また、これらの充実・改善は、授業評価においても高い評価を得ることができたことから裏付けられたと考えている。

4 おわりに

中央教育審議会答申(文部科学省 2016)の音楽教育では、「一人一人が感性などを働かせて様々な事を感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながっていくものであることが重要とされている。「知識」が、体を動かす活動なども含むような学習過程を通じて、個別の感じ方や考え方等に応じて、生きて働く概念として習得されることや、新たな学習過程を体験することを通じて、更新される。(なお、ここで言う概念の習得が一般概念の習得にとどまるものでないことを留意する必要がある。)」と示されている。音楽科における「見方・考え方」は、「知性と感性の両方を働かせて対象や事象を捉えることを特徴としており、知性だけでは捉えられないことを、身体を通して知性と感性を融合させながら捉えていく必要がある。この音楽の特性は、他教科におけるそれとは異なり、芸術系教科・科目が担っている学びの特徴である。また、個別性の重視による多様性の包容、多様な価値を認める柔軟な発想や他者との協働、自己表現とともに自己を形成していくこと、自分の感情のメタ認知などにも、芸術系教科・科目を学ぶ意義や必要性がある。これは音や音楽のもつ機能をふまえて音楽指導に生かす取り組みを検証する基本的な考えである。

以上のように、本論文では、音や音楽のもつ機能を8つに分類し、音楽活動と音や音楽のもつ機能をふまえた学習のねらいを学習指導要領との比較で一考察した。このように、音や音楽のもつ機能を踏まえて学習のねらいを設定することは、音楽教育のみならず特別支援教育においても適応可能な視点であり、その要素を音楽指導に取り入れることは発達支援における有効性は高いと考えている。また、普通学校において特別支援教育が必要とされる児童・生徒が増加していることに鑑み、その有効性についても今後検討したい。

*宮崎県立みやざき中央支援学校

参考文献・参考引用文献資料

- 藤田英典(2015)「音楽の機能と音楽教育の意義」『音楽教育学第45-1』

音楽指導における学習のねらいに関する一考察
～音や音楽のもつ機能の効果的活用～

- 松井紀和（1980）「音楽療法の手引き」 牧野出版
- 遠山文吉（2005）「知的障害のある子どもへの音楽療法」 明治図書
- 宇佐川浩（1994）「音楽療法における発達診断」 日本臨床心理研究所機関誌『音楽療法 JMT』 Vol. 4
- 「小学校，中学校，盲学校，聾学校及び養護学校 学習指導要領」 文部科学省
- 「おんがく☆，おんがく☆☆，おんがく☆☆☆，教科書解説」 文部科学省
- 「小学校 学習指導要領」 文部科学省 P75～P82
- 「幼稚園，小学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（概要）」 中央教育審議会（2016年12月） P4
- 「幼稚園，小学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」 中央教育審議会（2016年12月） P161～P166